

2023 年度 チャイルドライン OSAKA 年次報告書



I	チャイルドライン OSAKA 概要	1 ページ
II	電話のデータ	6 ページ
III	2023 年度をふりかえって	9 ページ

I チャイルドライン OSAKA 概要

1. 事業の開始 2001 年 1 月より常設
2. 事業目的 子どもの権利条約の理念に基づき、子どもの「声」を受けとめることで、子どもがありのまま安心して心身の居場所を作ります。
チャイルドラインの広報をすることで、子ども・子どもにかかわるおとな・社会へ、子どもの最善の利益と子どもの意見表明の権利の大切さを伝えます。（注※1）
3. 実施内容 18 歳までの子どもの専用電話「チャイルドライン」全国統一フリーダイヤル(0120-99-7777)、専用「オンラインチャット」の開設
毎週金曜日 16 時～21 時チャイルドライン実施
第3金曜日 16 時～21 時オンラインチャット実施(2024 年 1 月より)

日曜スポットチャイルドライン実施 9 回
「夏休み明け全国キャンペーン」参加
「ネットでんわ」試行参加（8/25）
「ずっとつながる 24 時間キャンペーン」参加
「孤独孤立相談ダイヤル」（内閣府・民間団体連携）参加

7 月～9 月 オンラインにて「受け手ボランティア養成講座」、「実践講座」を実施し、7 名が新スタッフとして活動開始

「オンラインチャット受け手養成研修」（10/29、3/24）を実施し、オンラインチャット受け手 9 名登録

チャイルドライン支援センター（注※2）「情報・セキュリティー対策」研修資料で現任研修（6/17）
チャイルドライン支援センター全国研修「子どもの性暴力被害をどう聴くか」（12/10）
エリア研修「不登校と多様な学びへのハッピーアドバイス」（2/3）
チャイルドライン支援センター開催「効果的な社会発信を考える」（2/15）
チャイルドライン支援センター開催「支え手研修」（3/2）

定例会 11 回

チャイルドライン支援センター総会（6/10）参加

大阪連絡会（注※3）、近畿北陸エリア（注※4）会議、参加

2022 年度年次報告書作成

厚労省新型コロナウイルス対策費用の補助金受給

「大阪コミュニティ財団」「ウェスレー財団」より助成金受給

4. 広報活動
- ＜「夏休み明け全国キャンペーン」キャンペーンポスター配布＞
大阪市立中学校（133 校）
 - ＜「ずっとつながる 24 時間キャンペーン」カード配布＞
大阪市立中学生・大阪府下私立中学生・大阪市港区小学生（85,000 枚）
 - ＜「ずっとつながる 24 時間キャンペーン」チラシ配布＞
大阪府立高校・中学校・支援学校高等部のクラス（4,000 枚）

大阪連絡会としての取り組み

＜カード配布＞枚方市の小中学生 約 30,000 枚

＜ポスター配布＞大阪府内の私学小中高校府立学校、府立学校へ約 400 枚

2023 年度「受け手ボランティア養成講座」チラシ



～18さいまでの子どもがかけると子ども専用電話～
チャイルドラインOSAKA

**Zoomによる
オンライン講座**

**2023年度 受け手ボランティア養成講座
参加者募集！！**

チャイルドラインは、18 歳までの子どもがどんなことでも安心して話すことのできる電話です。
子どもは話を聞いてもらい、受けとめてもらえたと感じたときに、「自分は大切な存在だ」と気づくことができます。子どもの権利を学び、『聴く人』になって、私たちと一緒にボランティアをしませんか。

開催日

2023年7月15日(土)～9月17日(日)

講座の時間など詳細は裏面の養成講座プログラムをご参照ください

受講料

連続講座 18,000円 (センター個人会員10,000円)

公開講座 一コマ2,000円 *講座⑧のみ3,000円となります
(センター個人会員1,000円)

申し込み

子ども情報研究センター事務局まで
別紙「受講申込書」をお送りください
(FAX・E-mailにてご送付ください)

E-mail QRコード↓



**申し込み
しめきり**

**2023年7月5日(水)までに
受講申込書をお送りください**

- 受講料は事前に振り込みとなります
- 申込書をお送りいただいた方に別途ご案内いたします

**お問い合わせ
申し込み**

公益社団法人子ども情報研究センター事務局

〒552-0001 大阪市港区波除4丁目1-37HRCビル5階

電話:06-4708-7087 FAX:06-4394-8501

E-mail:kenshu@kojoken.jp

(右上のQRコードを読みこむとメール画面が開きます)

件名に「チャイルドライン受け手養成講座申し込み」と明記してください

この講座はウェスレー財団からの助成金で開講いたします



ウェスレー財団
Wesley Zaiden



主催：公益社団法人子ども情報研究センター
ホームページ：<https://kojoken.jp/index.html>
(右のQRコードからホームページが開きます)



ホームページ
QRコード

2023年度 受け手養成講座プログラム

Zoomによる
オンライン講座

公開講座①

7/15(土)13~15時

子どもの権利条約を学ぶ

吉永省三さん(子どもの権利条約総合研究所顧問/
公益社団法人子ども情報研究センター理事)

公開講座②

7/15(土)15時15分~16時45分

子どもの声を聴き続けて

今橋千晶(チャイルドライン
OSAKA代表)

公開講座③

7/23(日)13~15時

チャイルドラインを知っていますか?

関戸真紀さん(特定非営利活動法人
チャイルドライン支援センター理事)

7/23(日)15時15分~16時45分

出会いのワークショップ

チャイルドラインOSAKAスタッフ

公開講座④

7/30(日)13~14時半

家庭の中や地域の子どもたち

奥村仁美さん(NPO法人SAKAI子育て
トライアングル代表理事)

公開講座⑤

7/30(日)14時45分~16時45分

社会的養護の子どもの権利
~当事者の視点から~

CVVスタッフ有志のみ
なさん

公開講座⑥

8/6(日)10時半~12時

学校の中の子どもたち

佐藤まどかさん(スクールソーシャルワーカー/
NPO法人グリーフサポート・リヴ代表理事)

公開講座⑦

8/6(日)13~14時半

「聴く」と「放す」

内山洋子さん(NPO法人子どもアドボカ
シーセンターOSAKA事務局長)

8/6(日)14時45分~16時15分

ロールプレイ①

チャイルドラインOSAKAスタッフ

特別公開講座⑧

8/27(日)13~16時「性の権利」と価値観について

金ハリムさん・高橋宏美さん
(任意団体Sexology project/セクソロ
ジープロジェクト共同代表)

9/3(日)13~14時半/14時半~16時

ロールプレイ②③

9/17(日)13時半~15時

振り返り&修了式(対面)



「チャイルドラインOSAKA」は毎週金曜日と月1回程度で日曜日の16時~21時に開設しています。
活動スタッフ希望の方は、全講座受講後(欠席の場合、補講あり)、子ども情報研究センターの個人正
会員に入会(年会費10,000円)し、実践講座(無料)、電話をとる現場の見学をしていただきます。



主催：公益社団法人子ども情報研究センター

ホームページ <https://kojoken.jp/index.html>



ホームページ
←QRコード

2023 年度に配布したチャイルドラインカード・ポスター・チラシ



**18 さいまでの
チャイルドライン**
☎0120-99-7777

通話無料(携帯・スマホもOK) まいにち 16時～21時

厚生労働省補助事業 | 2023チャイルドライン全国キャンペーン
後援: 文部科学省 文部科学省 総務省 主催: NPO法人チャイルドライン支援センター

チャイルドラインの
やくそく

- ヒミツは守る
- どんなことも、いっしょに考える
- 名前は言わなくてもいい
- 切りたいときは電話やチャットを切っていい

チャットもやってるよ

知ってる? **11月20日は世界こどもの日!!** (子どもの権利条約採択日)

24時間ずっとつながるチャイルドライン
ネットでんわをかけるときはアプリをダウンロードしてね

18さいまでのこどもがかけるとんわ
チャイルドライン
0120-99-7777

毎日16時～21時はいつでもどおり (年末年始はお休み)
電話代はかかりません
公衆電話の場合、最初に入れた10円は電話を終えたと戻ってきます

キャンペーン期間
2023年11月19日(日)16時～11月25日(土)21時

公衆電話の場合、最初に入れた10円は電話を終えたと戻ってきます

公衆電話の場合、最初に入れた10円は電話を終えたと戻ってきます

このカードは公益財団法人ウェスレー財団の助成金で作成しています

公益財団法人 ウェスレー財団 Wesley Zaidan

**聴かせてほしい
あなたの声**

あなたの気持ちを大切にしたい
あなたは、ひとりじゃない



子どもの持っている権利の中に
自分の気持ちや意見を「話す権利」と「聴かれる権利」がある
言葉はむずかしいけれど
どんな人にも持っている
あたりまえにしていることが権利だから
話すことがまんじなくていい
あなたが「話したい」と思った大切な気持ち
チャイルドラインに聴かせてください

18さいまでのこどもがかけるとんわ
チャイルドライン 夏の全国キャンペーン

フリーダイヤル **0120-99-7777** チャット

2023年8月22日(火)～9月4日(月)
まいにち 16:00～21:00

ネットでんわはじまります 2023年8月21日～8月28日まいにち 9月4日からまいにちうよう

厚生労働省補助事業 | 2023チャイルドライン全国キャンペーン
後援: 文部科学省 文部科学省 総務省 主催: NPO法人チャイルドライン支援センター

知ってる? **11月20日は世界こどもの日!!** (子どもの権利条約採択日)

**24時間ずっとつながる
チャイルドライン**

18さいまでのこどもがかけるとんわ
チャイルドライン
0120-99-7777

毎日16時～21時はいつでもどおり (年末年始はお休み)
電話代はかかりません
公衆電話の場合、最初に入れた10円は電話を終えたと戻ってきます

キャンペーン期間
11月19日(日)16時～11月25日(土)21時

2023チャイルドライン全国キャンペーン
厚生労働省補助事業 後援: 文部科学省 文部科学省 総務省 日本医師会 小児科医会

このチラシは公益財団法人ウェスレー財団の助成金で作成しています

チャイルドラインのやくそく

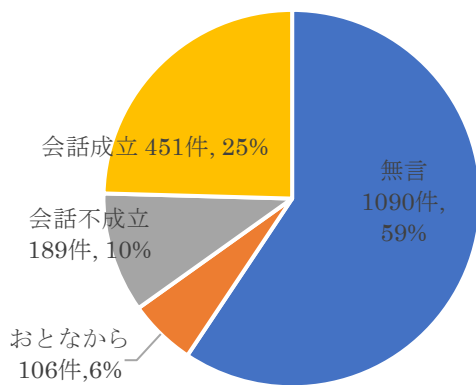
- ヒミツは守る
- どんなことも、いっしょに考える
- 名前は言わなくてもいい
- 切りたいときは電話やチャットを切っていい

ネットでんわはじめだよ!!
オンラインチャットやネットでのんわの開設時間はホームページで確認してね
アプリをダウンロードしてね!

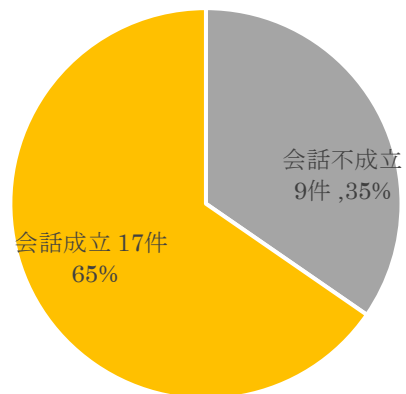
Ⅱ 電話のデータ

2023 年度はチャイルドライン（電話 56 日、オンラインチャット 3 日）を開設し、電話 1,836 件、オンラインチャット 26 件を受けました。

電話総受信1836件の内訳



オンラインチャット総受信26件の内訳



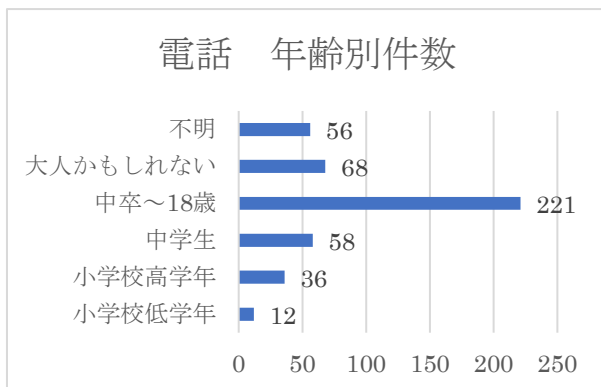
電話での会話成立は 25%でした。

「無言」や「会話不成立」には、話し出せなかったり、思いが言葉にならなかったりなどが考えられますが、これも子どものつながりたいという気持ちの表れと考えています。

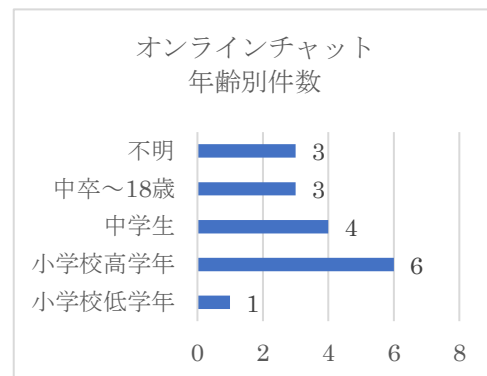
オンラインチャットでは、会話成立は 65%です。

子どもがチャットに訪問してきても、すぐにつながらないこともあり、中には待ち時間が 40 分ほどになることもあります。こちらが対応できた時にはチャット以外のことをして、会話不成立となった場合もあると思います。

（電話）会話成立した 451 件の内訳

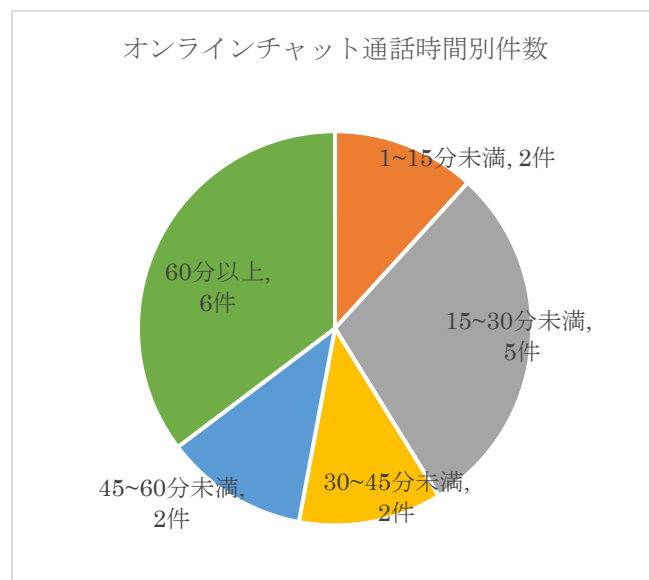
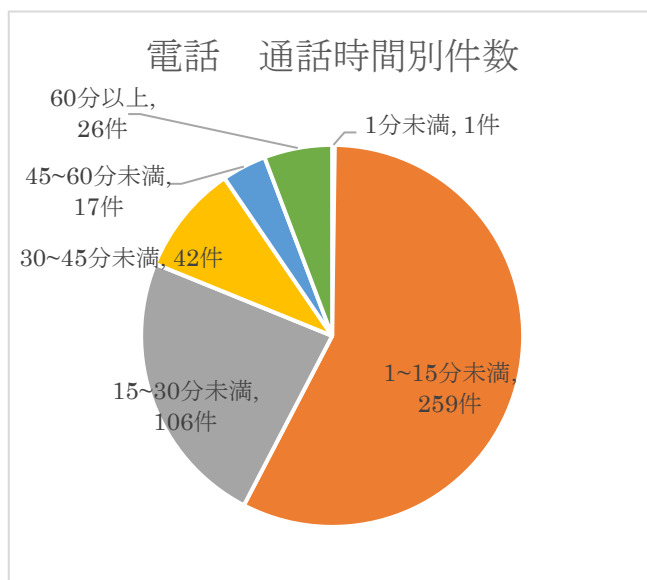


（オンラインチャット）会話成立した 17 件の内訳

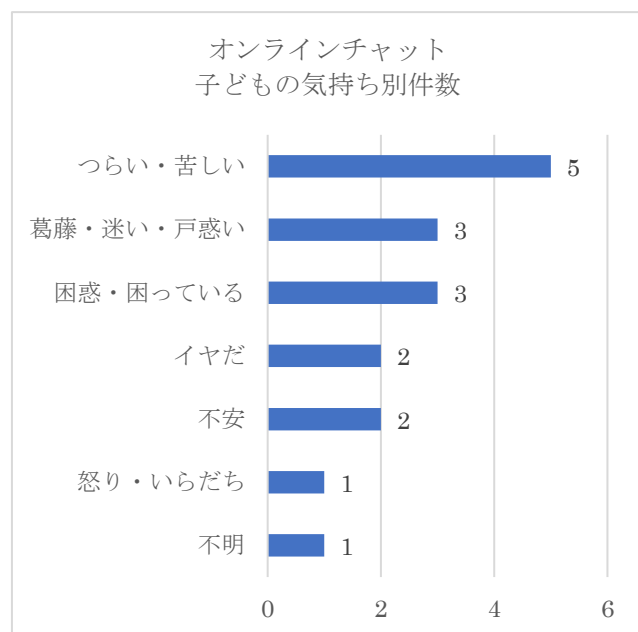
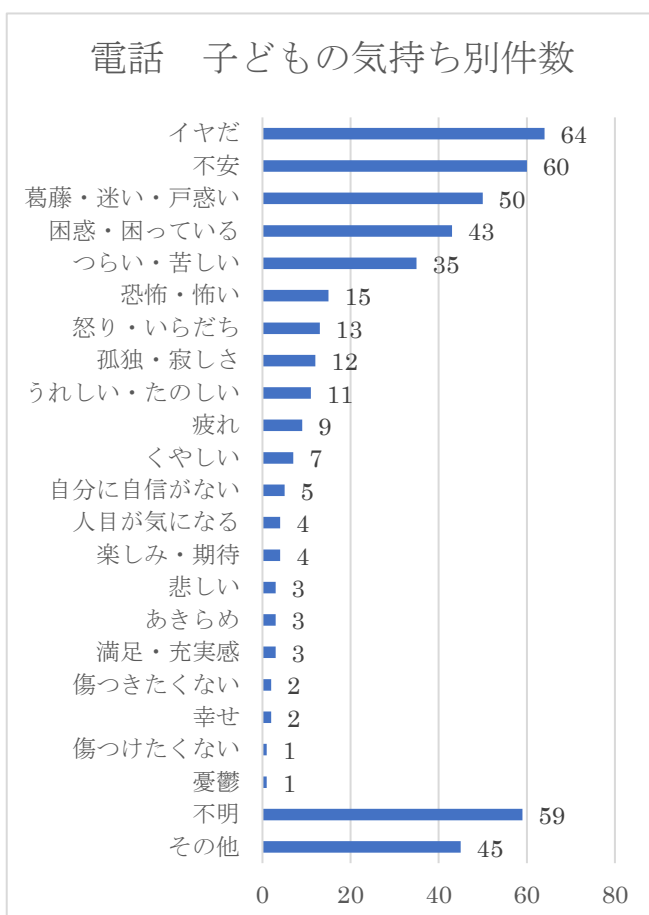


電話では、約半数が中卒～18 歳で、年齢が小さくなるにつれて少なくなっています。

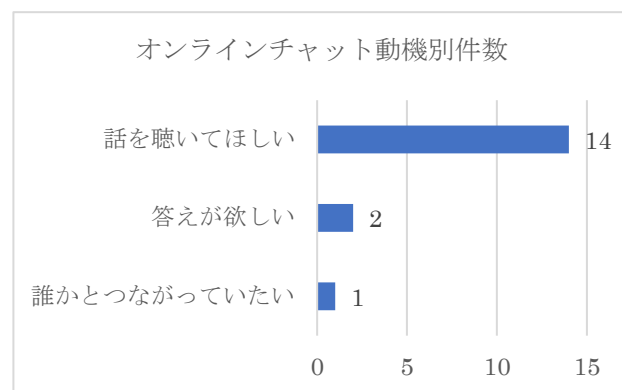
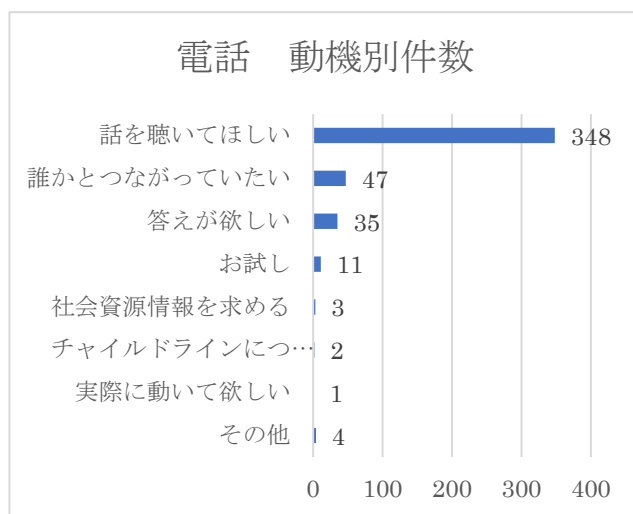
オンラインチャットでは、小学生高学年からの割合が多いです。



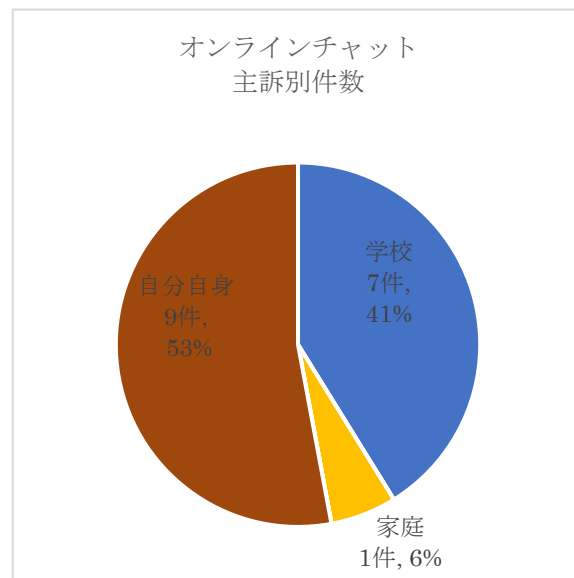
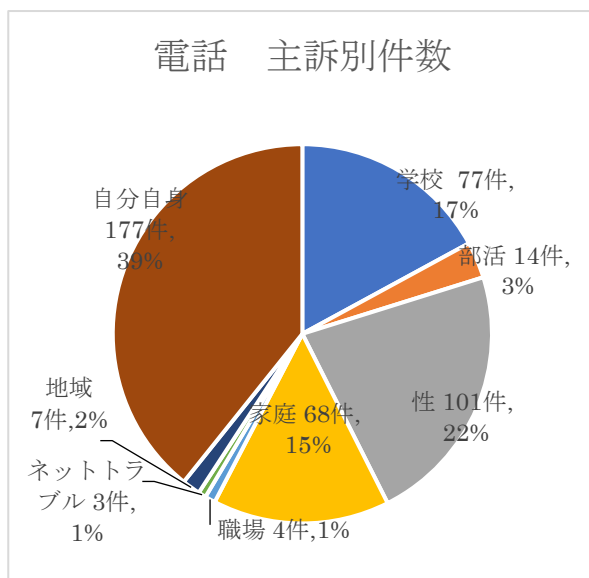
会話成立した場合、電話に比べオンラインチャットの方が長い時間つながっています。



電話・オンラインチャットともに、「イヤだ」「つらい」「不安」「迷い」などの件数が多いです。



電話・オンラインチャットともに「話を聴いてほしい」が多く、子どもたちは話し相手を求めて チャイルドラインとつながっています。

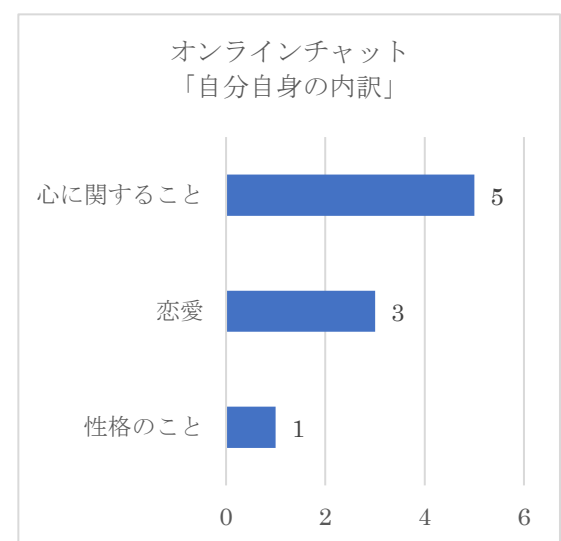
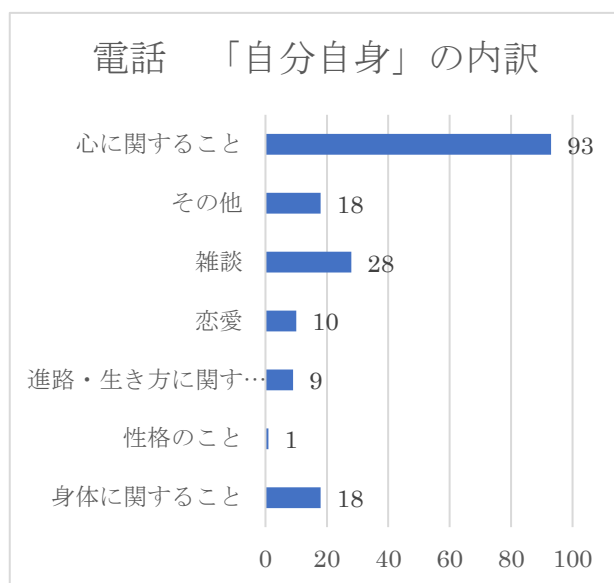
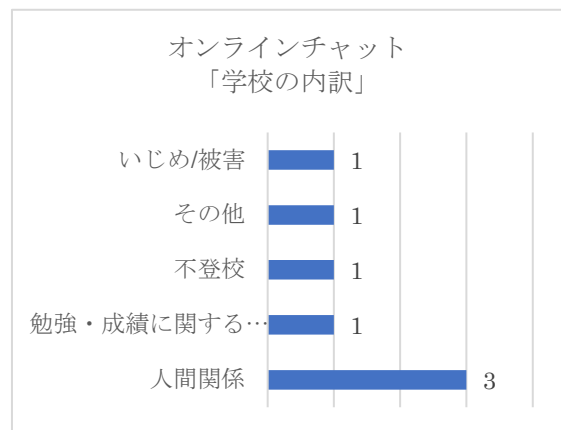
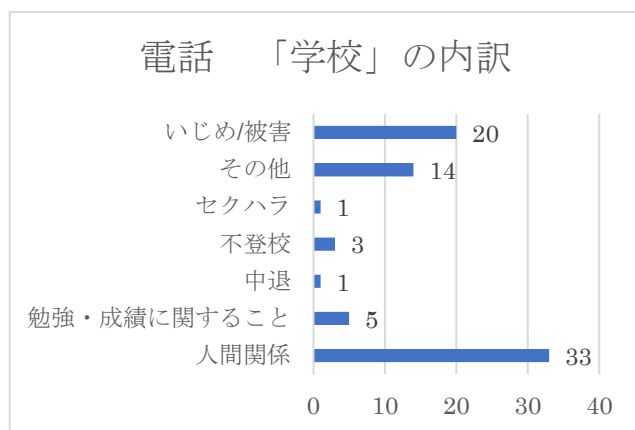


電話・オンラインチャットともに「自分自身」「学校」が多いです。
オンラインチャットでは、「性」について、がありませんでした。

次に「学校」「自分自身」の内訳をあげています。

「学校」では、電話・オンラインチャットともに「人間関係」が多いです。

「自分自身」では、電話・オンラインチャットともに「こころに関すること」が半数以上をしめています。



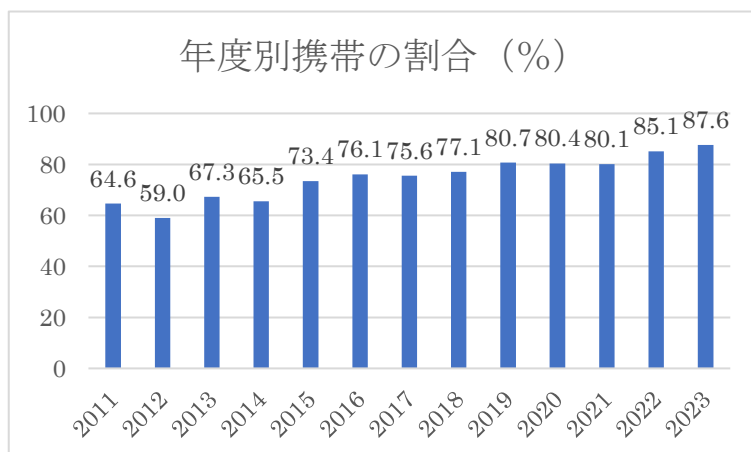
Ⅲ 2023 年度をふりかえって

●子どもがいつでもつながれる居場所を目指して

チャイルドライン OSAKA を常設して 22 年が経過しました。この間、さまざまな取り組みの中で子どもたちには「チャイルドライン」という「何でも話せる電話」があることや、チャイルドラインの 4 つの約束「ひみつは守る」「名前は言わなくていい」「どんなことでもいっしょに考える」「切りたいときには切っていい」を伝えてきました。

たくさん子どもたちが自分の話したいタイミングでチャイルドラインにつながり、いろいろな気持ちを聴かせてくれました。受け手はただひたすら子どもの声に耳を傾けることで、子どもたちが持つ力を感じ、「子どもの権利」を大切にする仲間として活動の意義を語り合ってきました。

ここ数年、活動を通じて気になっているのは物理的に“つながれない”子どもの存在です。携帯電話が通信手段の主流になるなか、固定電話をひく家庭の減少、公衆電話の激減など、個人で通信手段を持たない子どもにとって電話をかける行為はとてもハードルが高くなっているように思います。



左のグラフは、会話成立した件数の内、携帯からかけてきた件数の割合の推移です。

家に帰ってもおとながいないと電話をかけることが出来ない子どもや、限られた連絡先とのやり取りしか出来ないように管理されている子どもも多いと聞きます。子どもが巻き込まれるさまざまな事件報道から、個人の携帯電話を持つことが出来てもその使用方法についておとなから管理されている子どもが多いのは仕方ないのかもしれませんが。

以前は 16 時になると時報のように子どもからの電話がありましたが、16 時～21 時の開設時間の中で、電話がかからない時間が増えてきたように感じ、1 年間の受信時間を調べてみました。件数としては昨年より少なくなっていますが、それでも明らかに減少している原因は分析できませんでした。子どもへの広報は毎年取り組んでいますのでチャイルドラインを知らない子どもは少なくなったと思うのですが、おとなに向けた広報をどのように広げていくのか、これからの課題の一つと言えます。

一方で子どもたちはゲームや SNS を通じてリアルだけでなくバーチャルな世界でもたくさんのつながりを求めている現状があります。自分をさらさなくていい安心できる環境でボロッと本音を話したい、普段の自分を知らない人にホントの気持ちを打ち明けたい、友だちや先生・親には心配かけたくないから悩んでいることを話せない・・・おとなの管理をかいくぐるように新しい出会いを求める子どもたちの姿に『危なっかしい』だけで片付けられない切実なものを感じます。学校や地域の中で、互いに傷つけないように気を遣いあう子どもたち。ちょっとした言動がすぐに拡散されるネット社会の中で心を休める居場所を探す子どもの姿を、おとなはどう受けとめればいいのか？

「なにを話してもいいんですね？」「聴いてくれるだけでいいんです」「話せて少し気持ちが楽になりました」・・・チャイルドラインに届く子どもの言葉です。おとなへの怒り、理不尽な思いも直接はぶつけられない、友だちに不満はあるけどだからといってケンカまでしたくない。複雑な胸の内をただひたすら聴いています。

『18 さいまでの心の居場所』～現在、チャイルドラインが掲げているメッセージです。少し寄り道して気持ちを吐き出すことで、明日を生きる力につなげることが出来ればいいな・・・そんな気持ちで電話やパソコンの前で待っているおとながいることをしっかりと伝えていきたいと思います。

そして、つながる手段のない子どもたちと「チャイルドライン」がつながるために、わたしたちに出来ることはまだまだたくさんあると思います。子どもたちが利用する場所にチャイルドライン直通の電話を設置してみればどうか？学校で使うタブレットにネットでのアプリをインストールしてもらってはどうか？公衆電話に最初に必要な 10 円分の子ども専用のテレホンカードを設置してはどうか？多くのおとなが集まればいろいろなアイデアが出て来て、社会を動かす力になると思います。安心して子どもがつながれるように、子どもだけでなく周囲のおとなへの広報が大切です。子どもが話したいときに話せる環境をどうやったら作れるか？「子どもの意見表明権」を支える仕組みをたくさんの仲間とともにこれから考えていきたいです。

●子どもの現状に合わせて変化していくチャイルドラインへ

「オンラインチャット」の実施へ

子どもの現状に合わせ、今以上に多くの子どもの声を受けとめるため、全国のチャイルドラインでは 2016 年から徐々に実施団体を増やしている「オンラインチャット」の実施に取り組んだ 1 年でした。

オンラインチャットの実施にあたり、まずは運営スタッフ 2 名が支援センター主催の研修を受け、その内容を自団体のスタッフに伝えるという形式で体制を整えました。また、受信体制を整えるためのパソコン購入など、例年以上に予算が必要なため、2 つの助成金にエントリーし日々の活動も行いながら積極的に研修計画を立て、なんとか年度内の実施につながりました。

基本姿勢は電話と同じですが、文字を通じて子どもの気持ちを受けとめることは思った以上に難しく、子どもたちの土俵に上げてもらいながらなんとか取り組んでいる状態です。

以下、オンラインチャット受け手の感想を紹介します。

◇電話相談とくらべて、簡単に相談できるのがいいと思います。今のコミュニケーションの中心は、LINE や SNS ではないでしょうか。障害などにより電話での対応が難しい子どもたちとの話も可能になると感じています。

◇オンラインチャットでのやり取りを一言で言うなら、とにかく「おもしろい」です。子どもが迷いながらも一文字一文字文章を打っているだろうと想像すると、悩みながらも懸命に生きている姿を見せてもらっているような気持ちになります。一言一言がなんだかとても感動的で、「あ～、そんな風に感じているんだなあ～」と感じます。こちらも夢中になってやり取りするのであつという間に時間が過ぎて、とても疲れますが、オンラインチ

チャットではスクロールしてそれまでのやり取りを読み返すことも出来るので、電話では味わえない興味深さがあります。

◇チャットを早くかえさないと、と慌てないかなあ。こちらのチャットを待ってもらえるかなあ。こちらの言葉が伝わっているかなあ。と、文字を通してのつながりに不安を感じながらのオンラインチャットでした。始めると、子どもたちはゆっくり考えながら、こちらへ気持ちを伝えようとしているのが感じられ、私も同じように落ち着いてつながることができました。まだ、わずかなチャットしか受けていませんが、これからどんな子どもたちとチャットでつながるか、電話と同じように、心して臨みたいと思います。

「ネットでんわ」の実施へ

また、支援センターが開発した独自アプリを使った「ネットでんわ」にも取り組めるように準備を進め、受信体制が整い次第スタートを目指しています。すでに実施している団体によると、子どもにとってインターネット環境がありアプリをインストールすればかけることが出来る「ネットでんわ」は、フリーダイヤルの番号を打つよりもなじむようです。先に書いたように学校で配布するタブレットに入れてある自治体もあると報告を聞いています。子どもがアクセスできる環境を整えると同時に受信体制も急ピッチで整えていただきたいと願っています。

実施時間拡大へ

そして、チャイルドラインの実施時間についても検討する時期に来ているのではと感じています。これまでも「親がいない日中に開設して欲しい」「夜9時終了は早い。もう少し遅くまで開設して欲しい」など、子どもたちからはさまざまな要望が支援センターに寄せられていました。全国の実施団体との意見交換の場では、独自に開設時間を延ばして子どもたちの声を聴く工夫をしている団体もあると知りました。

2023年度、中四国エリアを中心に有志団体で取り組んだ「24時間キャンペーン」に参加したのですが、朝、学校に行く前にかけてくる子どもや、深夜に自分の胸の内を話してくれる子どもに出会い、子どもの生活実態に合わせて変化していく必要性を感じました。毎日は無理だとしても、このキャンペーンを定着させることで今までつながれなかった子どもにも出会う機会が増えるのであれば、全国の仲間と力を合わせ少しずつでも進んでいきたいと考えています。

（注※1）子どもの権利条約は、子どもの最善の利益を第3条に位置づけ、子どもにかかわるすべての行動において、その子どもの最善の利益が第一に考慮されなければならないとする原則を定めました。これはすべてのおとなが公私を問わず踏まえるべき原則です。その考慮のために、おとなは子どもの意

見に耳を傾け尊重することが必要なものであって、これが子どもの意見表明・参加の権利として第 12 条に位置づけられました。チャイルドラインの活動は、この子どもの権利条約の精神と原則に基づく活動です。

(注※2) チャイルドライン支援センター

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

子どもが生きやすい社会をめざして、全国のチャイルドライン実施団体（2023 年 5 月 1 日現在 39 都道府県 67 団体）と 協働し、子どもの「声」から気づいたことを社会に発信し、子どもの育つ環境が整うことを目指しています。

<https://childline.or.jp/> より、年次報告・各種データなど閲覧できます。

(注※3) 大阪連絡会

大阪府内にある 6 実施団体の総称。 情報交流の場で意見交換や合同研修などを行う。 合同で大阪府立学校、私立学校へのポスター配布(約 400 枚)。 2015 年に起きた寝屋川市中 1 男女殺害事件をきっかけとし、府内の未配布地域へのカード配布による広報にも取り組む。

(注※4) 北陸近畿エリア

富山・石川・福井・滋賀・奈良・京都・大阪の 12 実施団体の総称

2023 年度 チャイルドライン OSAKA 年次報告書



編集発行 公益社団法人 子ども情報研究センター

〒 552-0001

大阪市港区波除 4-1-37 HRC ビル 5 階

TEL 06-4708-7087 FAX 06-4394-8501

HP <http://www.kojoken.jp/>